

三 斎 流

九曜会だより

発 行

三斎流九曜会

会長 小林 祥泰

事務局 出雲市今市町53

我が三斎流九曜会に

前途洋洋たる兆しが…

「宗浦」の由来

小堀泰巖老大師が出雲の地の日本海、
宍道湖の自然豊かな風情より「浦」の字を
お考えいただきました。
そして、「孤舟蓑笠翁 独釣寒江雪」
という語をいただきました。

建仁寺での修行を終えて

この度、会員の皆様のお陰を持ちまして、無事に建仁寺での修行を終え帰庵できました事厚く御礼申し上げます。一年間という決められた時間ではありましたが、長いのか短いのかどちらにせよ自分にとってたいへん有意義な時間、贅沢な時間を過ごせた事に間違いはありません。振り返れば「宗浦」という安名を頂き得道し、それだけでもただ茶の道の者であれば構わないのでしょうか、僧堂に入り雲水として日々生活をする今思うと、とてももう一度は無理だと確信いたします。進んだ現代社会に生きる中、暑さ寒さを身体に感じることをすらいへん難儀なことであり、食事も質素とは程遠いほどのもの。日々繰り返しされる座禅に作務。僧堂という異空間で生き抜いた者のみを知る事の許される世界であります。まさしく血と汗と涙の結晶とはこの事を言うのでしょうか。

建仁寺管長であられる小堀泰巖老大師より「宗浦」を頂いたわけですが、この名の由来は老大師が出雲の地の日本海、宍道湖、自然豊かな風情より「浦」の字をお考えいただきました。そして「孤舟蓑笠翁 独釣寒江雪」(こしゅう さりゅうのおうひとりつる かんこうのゆき) という語をいただきました。ただ一つの舟に蓑と笠の老人が、たったひとりこの雪の川で釣り糸を垂れている。これは、中唐の詩人・柳宗元が、永州に流されていたときに作ったもので、釣り糸を垂れている老人に自身の姿を重ね合わせ、当時の不遇の心境を詠んだものと言われています。おそらくはどんな環境であろが、どんな状況であろが自身の茶の湯を楽しみとすればよいと置き換えられ、茶人にとってはたいへん名譽な語をいただきました。

最後になりましたがこの一年色々な形でお世話になった方々、改めまして深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

平成二十年四月

森山 宗浦 九拝

九曜会事業報告

平成十八年七月～十九年六月

○九曜会総会

平成十八年七月九日(日)

ホテル武志山荘

呈茶 事業部会

平成十八年度の総会が、会員二〇人の出席のもと盛大に開催した。会長が挨拶、続いて宗育家元のご挨拶、十七年度の事業決算等の報告、十八年度の事業計画、予算案の審議が承認された。

午後からは、香老舗松栄堂社長畑 正高氏が、「香の文化史」と題し、茶の湯と聞香等歴史的背景を基に講演をされ、実際に香木を手触れさせていただく機会を得、興味深く拝聴をした。

講演内容は後日講演特集号を発行する予定です。



○二十周年記念亀山茶会

平成十八年九月十七日(日)

北島国造家書院・亀山会館

先代宗瑞宗匠が、昭和六十一年九月に第一回亀山茶会を開催されて以来、今年は二十回目を迎えた。

これを記念して熊本から細川護光様をお迎えした。又、若宗匠のご高配により、遠路名古屋から表千家村瀬社中様の添釜のご奉仕をいただき同門の皆様のご参加もあった。

記念茶会に相応しい厳かで華やかな茶会となり、御神恩に感謝しお恵みを拝復した。

濃茶席(国造家書院 直門)

薄茶席(亀山旧館 表千家 村瀬社中)

薄茶席(亀山新館 立礼 辰村社中)

点心席(信徒会館 事業部)

二十回を記念して
記念品頒布会を企画

・皆具(萩焼・新庄定嗣作)

・掛軸(北島国造 宗育家元合筆)

・茶杓(北島国造銘 宗浦若宗匠作)

・香(宗育家元好銘 八雲・松栄堂)

○松江城山大茶会

平成十八年十月七日(土)・八日(日)

松江城山二の丸広場

秋の恒例行事となった大茶会は、初日は雨模様にもかかわらず六十一〇人、翌日も六五〇人の来席者で賑わった。

席担当 佐藤社中 福岡社中

野々村社中 加茂会

○祥峯宗瑞禅師

遠方忌(十三回忌)法要茶会

平成十八年十月二十二日(日)

祥峯宗瑞禅師を偲び澄田知事ご夫妻、ご親族並びに会員一五〇人が法要、茶会に参加。朝山一玄師の読経のなか、辰村九曜会副会長が供茶をし、十三回忌に相応しい法要茶会となった。

席担当

濃茶席(松霞亭 大野、加儀社中)

薄茶席(富士の間 直門)

点心席(観音寺書院 直門)



○十六善神を偲ぶ会

平成十八年十一月三日(金・祝)

平田本陣記念館

三回目を迎えた茶会も定着し、家元の献茶後、呈茶席があり海苔を使った海苔筆汁、ぜんざいが振舞われ六〇〇人の来客で盛況裡に終った。

席担当 伊藤社中、さくら会

○出雲和文化祭り

平成十八年十一月二十五日(土)・二十六日(日) 出雲文化伝承館

日本の伝承文化の振興、発展、継承を目的に出雲茶道文化交流会が設立され、誰でも気軽に参加を呼びかけ茶道の普及に務めた。

席担当 杉山社中、今岡社中

○三齋忌

平成十八年十二月三日(日)

観翠庵道場

書院に流祖三齋公の尊像を安置し、観音寺朝山一玄師を迎え一同で読経し遺徳を偲んだ。参加者七〇人

席担当 濃茶席(松霞亭 山崎社中)

薄茶席(富士の間 杉原社中)

○早春の茶会

平成十九年三月二十五日(日)

出雲文化伝承館

十五回目を迎えた「早春の茶会」は、伝承館(当流は松籟亭)を会場に誰でも参加できる茶会として定着

し、六五〇人に呈茶をした。

席担当 山田社中、下垣社中

○新樹の茶会

平成十九年四月二十九日(日・祝)

観翠庵道場、観音寺書院

観翠庵道場で、他流派及び一般市民の方に親しんでいただく唯一の茶会であり、二八〇人の来席者で賑わった。

席担当

濃茶席(観音寺書院 大田 広沢社中)

薄茶席(富士の間 山本社中)

○出雲大社大茶会

平成十九年五月十五日(火)・十六日(水)

出雲大社外苑

参道東側に茶席を設け五月晴れのもと千人近い参席者で賑わった。

席担当

樋野社中、山崎(明)社中

原・沼米子・安来社中

○講習会

平成十九年六月十日(日)

出雲文化伝承館 松籟亭

家元のご挨拶後、翠木会会長渋谷恒夫氏から「漆について」と題し、茶道具にかかわる興味深い講話をいただいた。

続いて、研修部会により、点前研究が行われた。

平濃茶

太平先生

薄茶大蓋点前 福岡先生

九曜会事業報告

〔平成十九年七月～二十年六月〕

○九曜会総会

平成十九年七月二十九日(日)

ホテル武志山荘

平成十九年度総会が、会員一人の出席のもと盛大に開催、会長様、家元様のいつも乍らお元気で力強いご挨拶に続き、十九年度事業、決算報告、次年度事業計画、予算案について審議され、何れも可決された。

午後は、京都(株)たん熊北店 社長 栗栖正博様に「京料理と懐石」という演題で予定時間をオーバーしての熱演を頂いた。

講演内容は後日講演特集号を発行する予定です。

○一畑薬師茶会

平成十九年九月一日(土)、二日(日)

一畑寺

三齋流担当は二日(日)残月亭、今年は、前管長七回忌追善茶会のため参席者には、記念品(色紙)を頂いた。

色紙・身心安楽(しんじんあんらくなり)

席担当 残月亭 山崎(智)社中

野々村社中・加茂会

○出雲大社亀山茶会

平成十九年九月三十日(日)

二十一回目の亀山茶会は、豊穣

に感謝し、家元による献茶が行われ、続いて奥書院の濃茶席、亀山新館の薄茶席でお茶を頂く。一八〇人の来席者で賑わった。

席担当

濃茶席

(北島國造家書院 大田・広沢社中)

薄茶席

(亀山新館 大平・杉山社中)



○松江城山大茶会

平成十九年十月六日(土)、七日(日)

松江城山二の丸広場

今年から松江開府四百年記念祭が始まり、例年にないにぎわいであった。両日とも天候に恵まれ、両日で一三五〇人の来席数があった。

席担当 辰村社中

○十六善神を偲ぶ会

平成十九年十一月十八日(日)

平田本陣記念館

今年は、回を重ね四回目となり、

定着。

法要に続き家元の供茶式、その後呈茶の席があった。

席担当 樋野・金森・山本社中

○三齋忌

平成十九年十二月二日(日)

観翠庵道場

書院に流祖三齋公の尊像を安置。師走の寒い中、観音寺朝山一玄師を迎え一同で読経し、遺徳を偲んだ。

席担当
濃茶席(松霞亭 大野・加儀社中)
薄茶席(富士の間 佐藤社中)

○早春の茶会

平成二十年三月二十三日(日)

出雲文化伝承館 出雲屋敷

十六回目を迎え、広く定着してきた茶会になり、今年も、六〇〇〇人程の県内全域からの来席者で賑わった。

席担当 福岡社中



○出雲の国神仏霊場合同茶会

平成二十年四月十三日(日)

峯寺

世界平和の祈願祭が行われる中、十三日には、家元による献茶が行われ、観音堂前にて、一般参拝者約三〇〇〇人に呈茶を行った。

席担当 九曜会有志・雲南翠木会



○新樹の茶会

平成二十年四月二十九日(火・祝)

観翠庵道場・観音寺書院

観翠庵を三齋流以外の方にも開く数少ない機会である恒例の茶会は、春のひと時、たくさんの方で賑わった。

席担当

濃茶席

(観音寺書院 山田・下垣社中)

薄茶席(富士の間 杉原社中)



床 天室和尚筆 巖頭抄一字
(大徳寺一九〇世)

僧 巖頭に問う

道に猛虎に逢う時んばいかん

頭 曰く「抄」

大意は、一言せまってみること、恐れず挑戦すること。

禅問答では

仏祖の道を極めるには、虎であれ大徳であれ恐れず挑戦しなさいの意

○ 出雲大社大茶会

平成二十年五月十五日(木)、十六日(金)
出雲大社

毎年の茶会も、本年は、出雲大社
六十年に一度の遷宮の年にあたり
御本殿の一般拝観期間とも重な
り、両日とも、いつも増して、大
いに賑わうお茶会となった。

席担当 社務所

直門・伊藤社中



○ 研修会

平成二十年六月二十九日(日)
出雲文化伝承館 松籟亭

家元様挨拶の後、若宗匠から、井
伊直弼の『一會集』についての講演
を頂いた。

続いて、研修部会により、点前研
究が行われた。

包み棗

大平先生

平濃茶(大板) 野々村先生

観翠庵(家元家)内外出来事色々

お悔やみ

故細川護貞公夫人薫子様
平成十八年七月二十一日ご逝去
謹んでお悔やみを申し上げます。

若宗匠得度式 十月七日

充若宗匠には平成十九年四月よ
り、京都建仁寺への入山に先駆け
て、得度式を受けられた。

建仁寺小堀泰巖老大師より「宗
浦」の安名を拝受された。

家元様

二人目の内孫さまご誕生

若宗匠ご夫妻には目出度く次女
ご誕生 平成十九年二月十六日



○わたしのなまえは香雪(こゆき)です。
○ママのおなかで3500gまでに大き
くなり、ママも重くて大変!これから
パパもいないし、はるか姉ちゃんもい
るしママもたいへんネ。わたしが大き
くなったら、はるか姉ちゃんと二人で
いっぱいいっぱいおてつだいしてあ
げるネ。だから、パパがいなくても、マ
マがんばってネ……(ゆき)

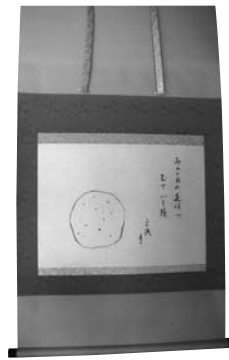
若宗匠主催のお茶会

平成十九年三月四日(日)

観翠庵道場

茶会の主旨は:

四月より建仁寺に入山するため
「留守宅を宜しく頼みます」との
若宗匠のやさしいお気持ちを一服
のお茶に込められた茶会
すべて心のこもった自作品で



平成十九年七月

おめでとう七・五・三祝

平成十九年十一月

若宗匠ご長女暖花(はるか)ちゃん
ひも落しお祝着 すてきでしょ!!
とても可愛らしく「はいポーズ」



お見舞いを申し上げます

平成二十年一月二日

宗有家元様には新年早々道場
の正月準備の最中に左足首捻挫
されたが、三日・四日年始客の接
待をされ、その夕方病院へ。以後約
二ヶ月の入院生活。その間、庵を
守られた典子先生は、大変ご苦労
されたことと存じますが、持前の
精神力で過ごしていただきました。

家元様はその後退院間もなく
京都へ。又、四月十三日には峯寺で
の献茶式などご活躍をされてお
ります。

宗浦若宗匠目出度く帰庵

平成二十年四月

無事一年間の修行を終えて帰庵
されました。

本紙巻頭に掲載しました写真は
建仁寺専門道場の門前にて下山の
際、般若心経を読まれる姿



シリーズ(茶花)



トウテイラン
(ゴマノハグサ科)

彩紫花苑の植物 誌より
(北陵高校)
植物研究家 丸山 巖 氏

隠岐の島と因幡と丹後とに分布する
美しい植物の多年草。

★全植物体は白い綿毛でおおわれてい
る。★葉は厚く基部を除きのこぎり歯
のある細長楕円形で対生の葉を多数つ
ける。★夏から秋にかけて藍紫色の筒
状の花を密につける。★和名は洞庭湖
で藍は花の色を意味し、中国の洞庭湖
の美しい瑠璃色の水にちなんだものと
言われている。昭和42年10月に当時の
皇太子と妃殿下が島根県下を行啓の
時、丸山氏は美智子妃殿下にこのトウ
テイランをお目にかけられた。妃殿下
は「クワガタソウやトラノオの類です
か」とおせられ、丸山氏は妃殿下の分
類眼識慧眼に驚き入ったそうである。